

2020年度「平和カンパ」活動報告書

◆事業名： 難民の子ども、障がい者・児をもつ家庭に対する栄養改善事業

◆事業の背景と目的：

トルコで避難生活を送る約360万人の難民のうち、多くは収入の途が限られている。経済的な困窮により安価で高カロリーの食材を購入せざるを得ず、栄養が不足している、あるいは栄養に偏りがあることが報告されている。特に、子ども、妊婦、乳幼児を持つ母親にその傾向が強いと言われている。小麦などの炭水化物を多く含んだ食べ物、または味を濃くするために塩、油、砂糖を多く含んだ食べ物を選びがちであるためと考えられる。加えて栄養素や健康についての知識の不足も、栄養の不足・偏りにつながっている。

2016年にトルコ保健省が行った調査によると、調査対象となったシリア難民のうち、塩分の過剰摂取が健康に悪影響を及ぼすことを知っている人は25%に満たなかった。また、80%以上の調査対象者が一度も血糖値を測ったことがないと回答した。この調査では、調査対象者の女性のうち36%、男性のうち21%が肥満であることが明らかになっており、この数字は内戦以前のシリア、またはトルコの水準から比べると非常に高い。この調査が示す通り、低収入および栄養や健康に関する知識の不足は、栄養の不足と栄養の偏りを生み、さらには健康上のリスクを難民にもたらしめている。

こうした状況を改善するために、当会は2018年よりFAO（国連食糧農業機関）と共同で、難民の女性を対象にした栄養に関する啓発活動を実施している。その結果、参加者の栄養に関する知識は向上した。しかし、依然としてそれぞれの家庭での実際の食生活に与えた変化は限られたものに留まっているという課題がある。それは、主に経済的な理由により栄養バランスの取れた食材を購入することが難しいことが背景にある。そして、現在起きている新型コロナウイルスの感染拡大と、それによってもたらされている収入の低下により、難民の食生活はさらに栄養の不足・偏りのあるものとなっていくことが危惧される。

そのため本事業においては、収入の低下による栄養不足と栄養の偏りを防ぐため、活動対象地域のスーパーマーケットと提携し、消費期限切れ間近の野菜や果物などの食材を無償または安価に調達し、対象となる難民世帯に提供する。提供する食材は栄養士の助言に基づいて調達し、食材を提供する際には、提供した食材を使用して作ることができる料理のレシピをオンラインで指導し、栄養バランスの取れた食事を実際に家庭で作ることができるように支援する。また、栄養士は活動実施前と実施後の各世帯における栄養バランスについて調査し、この活動を通じて、栄養バランスがどれだけ改善されたかを確認する。

◆活動の概要と成果：

1-1. 現状

2020年10月以降、シャンルウルファ市に店舗を構えるスーパーマーケット、市場、同市行政などと交渉し、食材を無償または安価に調達する方法を模索した。その結果、無償で食材を得ることはできなかったが、同市の卸売市場から安価で食材を調達することが可能となった。

対象となる難民世帯として、当会がこれまでに支援してきた障がい当事者または障がいの保護者グループから27世帯（160人）を選定した。活動の開始前に、栄養士の作成した質問紙に基

づき、各世帯の収入や食料の購入・消費パターンを調査した。その結果、27世帯全てが月収2,000トルコリラ（約3万円）以下であり、27世帯のうち22世帯が新型コロナウイルスの感染拡大以降、収入が減少していた。月収2,000トルコリラはトルコの法定最低賃金である2,324トルコリラに満たず、経済的に厳しい状況に置かれていることが分かった。また、果物の消費が少なく、菓子類による砂糖の消費が多いことも判明した。

この調査結果をもとに、4月15日に第一回の食材の提供を行った。小麦や豆などの主食に加え、カリフラワー、パセリ、にんじん、リンゴ、オレンジなどを提供した。食材とともに、栄養士が作成したカリフラワー・サラダのレシピも伝えた。食材の提供は毎週1回行うこととし、第2回目は4月22日に実施された。

◆今後の計画：

7月中旬まで、合計13回の食材の提供を予定している。新型コロナウイルスの感染再拡大により、4月29日から5月17日までトルコ全土でロックダウンが実施され、外出が厳しく規制されるため、その間の活動は中断することとなる。今後ロックダウンが延長される可能性があり、その場合は中断の期間も延長される。

当初の予定では、対象となる難民世帯からボランティアを募り、食材の仕分けなどを行ってもらう予定であったが、新型コロナウイルスの影響により、第一回と第二回の食材提供ではボランティアに業務を依頼することができなかったが、今後ロックダウンが解除され外出規制が緩和された際には、ボランティアに業務を依頼していく。

7月中旬に食材の提供が完了した後、再度栄養士の作成する質問紙に基づいて、各世帯の食料の購入・消費パターンを調査する。

以上